

岐阜農林事務所の普及活動状況

平成28年4月30日現在

今月の重点活動

■えだまめ 各地区で栽培研修会を開催

J Aぎふえだまめ部会は、4月11日から26日にかけて、6地区において、栽培研修会を開催した。

農業普及課からは、農薬登録情報や土づくりの重要性、緑肥栽培の注意点などを紹介するとともに、出荷の平準化、病虫害管理策の徹底などの指導を行った。また、GAPの取り組みを推進するため、農薬事故や異物混入の防止に向けた2種類の啓発資料を作成し、配布した。参加した生産者からは、土づくりの重要性が理解できたなどの発言があった。

今後、農業普及課では、品質管理の徹底と安定生産に向け、栽培研修会等で技術情報を提供していく予定である。(園芸産地支援第一係・川部 知)



【栽培研修会の様子】

活力ある新産地づくり

■春ブロッコリー 春ブロッコリーの収穫間近

J Aぎふ春ブロッコリー研究会は、4月11日に現地栽培講習会を開催し、良品出荷を行うため、組織活動の一環としてほ場を1つ1つ巡回し、生育状況を確認しながら生産者同士の情報交換を行った。

今年度の生育は昨年並みであるが、気温が高めに推移していることもあり、例年より病虫害の発生が多く、農業普及課では、病虫害対策など当面の管理について指導した。今後、5月中旬～6月上旬にかけて、出荷が予定されている。

(地域支援第一係・稲葉千佳)



【現地研修会の様子】

■アスパラガス 市場交流会を開催

4月12日、J Aぎふ羽島市アスパラガス部会が岐阜市中央卸売市場を訪問し、卸売会社との情報交換を行った。岐果岐阜青果(株)の担当者からは、「羽島産のアスパラガスは、大口の販売先である量販店から品質面で高評価を得ている。」など、生産者の日頃の努力が報われる発言があった。また、特に春芽については出荷量を増やして欲しいとの要望もあり、産地として安定生産、出荷量アップに取り組んでいく必要があることを確認した。

今後、農業普及課では、アスパラガスの産地拡大に向け、関係機関と連携し、活動を展開していく予定である。(園芸産地支援第一係・松浦香絵)

多様な担い手づくり

■かき 「柿産地担い手育成事業」研修生の修了式を開催

兎柿振興会は、4月19日に柿産地担い手育成事業初の研修生修了式を開催した。修了生から就農に向けての抱負を語ってもらい、指導者の加藤顧問から就農に向けた激励の言葉、青年企画部から応援メッセージがあった。

この事例が柿農家以外からの新規就農モデルになることが期待されており、農業普及課では、研修修了生の営農確立を支援するとともに、今後もメディアを通して、新規就農者の活動について情報発信をしていく予定である。

(園芸産地支援第二係・鷺見彩子)



【修了生を囲んで】

売れるブランドづくり

■特別栽培米 平成28年産米の生産に向けて

4月20日、JAぎふ特別栽培米生産推進協議会総会が開催され、農業普及課からは、異常気象の中での基本的な栽培管理について説明するとともに、米価低迷にも対応するため、農業技術センターで開発された豚ふん堆肥を原料とした肥料の利用についても紹介した。

岐阜市役所では、昨年度からふるさと納税のお礼として、特別栽培米を贈り、納税者からは好評となっている。今後、農業普及課では、関係機関と連携し、高付加価値化など売れる米づくりを支援していく予定である。（地域支援第一係・丹羽宣子）



【総会の様子】

■水稲 水稲青空教室担当者研修会を開催

4月15日、JAぎふは、アグリパークにおいて、平成28年度の第1回青空教室担当者研修会を開催し、農業普及課が講師となり、JAの営農担当者を対象に、育苗方法や移植後のトラブル対策を含めた技術指導を行った。

今後も、このような研修会を開催し、水稲栽培技術の統一を図っていくこととしており、農業普及課としても引き続き支援していく予定である。（地域支援第二係・山田隆史）



【研修会の様子】

■だいこん GAP現地調査を実施

JAぎふだいこん部会は、4月11日に岐阜市則武、鷺山地区の部会員12名を対象としたGAP現地調査を実施した。

内部監査員である部会役員とJAぎふ、JA全農岐阜、農業普及課の担当者が部会員宅を訪問し、25の点検項目について、聞き取りや現物確認などを行った。

現地調査を重ねるごとに、点検項目の達成率は向上しているが、農薬保管庫がなく、机や棚に農薬が置いてあったり、農薬散布後のタンクやホースなどの洗浄が不十分であったりと、不適切な管理の事例も確認された。

今後、農業普及課では、調査結果を取りまとめ、改善が必要な項目についてのフォローアップ支援をする予定である。（園芸産地支援第一係・近藤 勝）



【GAP現地調査の様子】

■いちご バンカーシートを設置

農業普及課は、4月22日、いちご新品種「華かがり」の本巢市内の育苗ほ場において、天敵を利用したハダニ類防除展示ほ場として、バンカーシートの設置を行った。

近年いちごでは、ハダニ類に対する農薬の効果が低下しており、生産者からは、農薬に頼らない防除技術の確立を求める声が大きくなっている。

今後、農業普及課では、農業技術センターや農業経営課と連携し、天敵の定着やハダニ類の発生状況調査を行い、防除技術の確立を目指していく予定である。



【バンカーシート設置の様子】

園芸産地支援第一係・小島康平)